

2. 地区の災害特性及び防災対策の方向性の補足（藤崎小学校区）

1) 地区内の人口状況：平成 25 年との比較

◆市総人口：161,047 人/H25 年 ⇒ 175,065 人/R5 年 【14,018 人増】

	H25 年 3 月		R5 年 3 月		備考
地区全体	12,554 人	⇒	13,439 人	★885 人の増加	
0 歳～ 9 歳	1,928 人	15.4%	1,524 人	11.3%	939 人
10 歳～14 歳					585 人
15 歳～19 歳	8,545 人	68.1%	9,300 人	69.2%	622 人
20 歳～29 歳					2,058 人
30 歳～59 歳					5,966 人
60 歳～64 歳					654 人
65 歳～69 歳	2,082 人	16.6%	2,616 人	19.5%	540 人
70 歳～79 歳					1,182 人
80 歳以上					894 人

●全体としての人口は増加、14 歳以下の人口が減少

●65 歳以上の人口数対生産年齢人口数比
★1 人対 3.5 人

2) 丁目ごとの標高

◆藤崎

丁目	最高	場 所	最低	場 所	高低差
1 丁目	22.5m	15 番 8 号付近の道路	8.5m	1 番 13 号付近の道路	14.0m
2 丁目	20.7m	15 番藤崎墓地	6.3m	2 番 10 号付近の道路	14.4m
3 丁目	24.6m	9 番 19 号付近の道路	8.0m	10 番 19 号付近の道路	16.6m
4 丁目	25.5m	5 番 19 号付近の道路	9.5m	9 番 3 号付近の道路	16.0m
5 丁目	26.0m	14 番 16 号付近の道路	14.4m	12 番 19 号付近の道路	11.6m

◆津田沼

丁目	最高	場 所	最低	場 所	高低差
1 丁目	19.2m	18 番 34 号付近の道路	4.9m	22 番久々田歩道橋下	14.3m
3 丁目	14.1m	6 番 17 号付近の道路	4.7m	2 番 JR 総武藤崎ゲート	9.4m

※国土地理院地図データから職員が手作業により、検索しているため、多少のズレ有

3) 丁目ごとの災害特性：全壊・半壊棟数＝千葉県北西部直下地震想定時

丁 目	揺れ		液状化	河川氾濫浸水	内水氾濫浸水	高潮浸水	土砂災害
	全壊	半壊	全半壊				
藤崎 1 丁目	30 棟	80 棟	0 棟	なし	0 棟	なし	7 棟
藤崎 2 丁目	28 棟	57 棟	0 棟	なし	119 棟	なし	22 棟
藤崎 3 丁目	44 棟	112 棟	0 棟	なし	141 棟	なし	23 棟
藤崎 4 丁目	28 棟	93 棟	0 棟	なし	194 棟	なし	73 棟
藤崎 5 丁目	21 棟	75 棟	0 棟	なし	71 棟	なし	0 棟
津田沼 1 丁目	15 棟	42 棟	0 棟	なし	0 棟	なし	24 棟
津田沼 3 丁目	39 棟	68 棟	0 棟	なし	118 棟	なし	7 棟

4) 住民の視点から見た地区の災害特性：H25 年ワークショップ

連番	区 分	意見等内容
1	土砂災害	◆避難所・避難場所である小学校ががけに囲まれており、がけは過去に崩れた履歴もあるため、心配である。 ◆通学路になっている箇所でがけや擁壁が崩壊しており、地区内には補修・整備が行き届いていないがけや擁壁が多数ある
2	液状化	◆菊田川沿いの地域は、東日本大震災時にも発生しているため、液状化が心配である。
3	建物被害	◆子安神社は鳥居・看板の落下が予想され、転倒しそうな石も多いので、避難場所として安全とは言えないのではないか。
4	避難経路	◆高台（掘込貝塚・子安神社）方面へ行く道が狭く、避難の際に支障をきたす可能性がある。

5) 住民の視点から見た防災対策の方向性：H25 年ワークショップ

連番	区 分	意見等内容
1	情報共有	◆地震時に崩れる可能性のある場所や、よく水が出る場所等について、看板で明示するなど広く情報発信する。 ◆東日本大震災の時に液状化やブロック倒壊が発生した箇所などの地域の危険箇所について、住民の間で情報共有する。
2	一時避難場所	◆町会毎に一時避難場所を（4 箇所程度）設定し、災害時にはまずそこに避難し、そこで安否等を確認するようにする。
3	避難経路	◆避難所・避難場所への行き易さを検討し、災害時に安全に避難できる避難経路を整備する。
4	防災マニュアル	◆町会のブロックごとに初動マニュアルを作成し、防災倉庫に入れておくとともに、避難訓練の際に活用する。